髙橋　洋子　議員（自民誠和会）

児童・生徒への不登校対策と保護者支援の現状と課題を問う

教育長 小学校では不登校の出現率・復帰率が改善した

質問　現在、児童・生徒の不登校率が全国的に増加傾向にある。不登校の児童・生徒の多くは将来に不安を感じながらも、その状況から抜け出せずにいる。また、保護者の多くが、わが子の行く末に不安と悩みを抱えながら日常を過ごしているものと推察する。そこで次の4点を教育長に問う。

問①　現時点での不登校となっている児童・生徒数は。

教育長　4年度における不登校は小学生9人、中学生48人。

問②　不登校対策の取り組みと成果は。

教育長　不登校対策担当教員、SSW、関係機関と連携し組織的な対応に努め、その結果、小学校での不登校児童の出現率、復帰率が改善した。

問③　学校以外の学びの場の確保は。

教育長　スタディルームでは学習の補充をメインに行ってきたが、今後は不登校児童・生徒の安心できる居場所としての役割を持たせながら体験的な活動も組み入れていきたい。

問④　保護者支援の現状と課題は。

教育長　専任相談員、SSWが関係機関と連携を取りながら保護者に寄り添った支援を行っていく。

スタディルーム・いぶき

SSW…スクールソーシャルワーカーの略。問題に対し、保護者や教員と協力して問題解決を図る専門職。

奥泉　淳広　議員（日本維新の会）

庁用車の効率的な運用について

町長 庁用自動車運営委員会で多角的に検討

質問　町では、町長、議長の専用乗用車の他、副町長、教育長が主に使用する計4台のいわゆる黒塗り、VIPカーと呼ばれる庁用車を管理運用している。一方、近隣自治体では福生市、羽村市は2台、青梅市、武蔵村山市では3台である。自治体が運用する高額な庁用車の必要性については、たびたび世間で話題になってきた。物価高の昨今、行政への住民の目は実に厳しいものとなっている。庁用車が効率的に運用されているか、町長に伺う。

町長　黒の塗装となっている車両2台は町長、議長用に配車している。他2台は買い替え時に一般車両として再配置することを基本としている。町では庁用自動車運営委員会で、車両の購入時期、車種の適正化、購入とリースとのコスト比較、保有車両台数など多角的に検討している。今後、電気自動車、水素自動車を含めて、多種多様な車両が出てくると思うが、自然環境にも配慮した、効率的・効果的な庁用車の運用に努めていく。

一般車両として再配置した共用車

井上　一也　議員（もっと瑞穂に笑顔）

シェアサイクルの導入で、みずほきらめき回廊の充実を

町長 研究が必要になると思う

質問　最近、我が町周辺エリアでシェアサイクルの運用が始まっている。シェアサイクルは、レンタサイクルとは違い、借りた場所に自転車を戻す必要がない。このため、観光客に利用しやすいシステムである。武蔵村山市のシェアサイクルとの連携で、野山北・六道山公園エリアの観光充実化や、福生市のシェアサイクルとの連携で、青梅線エリアからも観光客の誘致ができるようになる。我が町での事業者の誘致や導入について町長の所見を伺う。

町長　狭山丘陵サイクリングマップも作成していることから、自転車の活用は否定しない。しかし、町商工会が行っている駅前での自転車の貸し出し件数は多くはない。仮にシェアサイクルを導入すると、丘陵地内のサイクルロードの整備・維持、関連自治体と実施主体である民間事業者との連携が必要となる。まず実施している近隣自治体の状況や意見を聞き、研究が必要となると思う。

こんな質問もありました

清掃活動専用無料ごみ袋（ボランティア袋）を導入し、町の美化促進を

町長　必要に応じて家庭用ごみ袋を配布しており、専用の袋を用意することは考えていない。

ヘルメットも貸し出し可能な町のレンタサイクル

大和　雅彦　議員（自民誠和会）

マイナンバーカードへの不安を解消し、今後のさらなる普及および活用を

町長 間違いのない手続きと処理を進めていく

質問　「マイナ保険証」はマイナンバーカードを健康保険証として利用するものである。国は「紙の保険証を2024年秋に原則廃止する」という方針を示した。しかし、トラブルが全国各地で続出して、不安が高まっている。今後は、マイナンバー制度への懸念を払拭し、行政の効率化と町民の利便性の向上を目指し、DXを推進すべきと考える。今後、さらなるマイナンバーカードの普及および活用に向けた町の対応について、町長の所見を伺う。

町長　国は、関連手続きの総点検を町にも求め、既に現段階の状況を報告した。国からは、これ以上の調査は必要ないと回答があった。懸念の払拭には地方自治体が窓口となり、情報保護と誤りのない情報の伝導が必要となる。町民が安心してマイナンバーカードを利用できるよう、間違いのない手続きと処理を進めていく。

こんな質問もありました

有機フッ素化合物（PFAS）の実態把握を早急にすべきでは

町長　横田基地内の泡消火剤の漏出について、防衛省に対して詳細な情報と迅速な情報提供の要請をした。今後も国や都の動向を注視するとともに、必要な情報は町のHPや広報などで周知する。

病院で導入されている顔認証付きカードリーダー